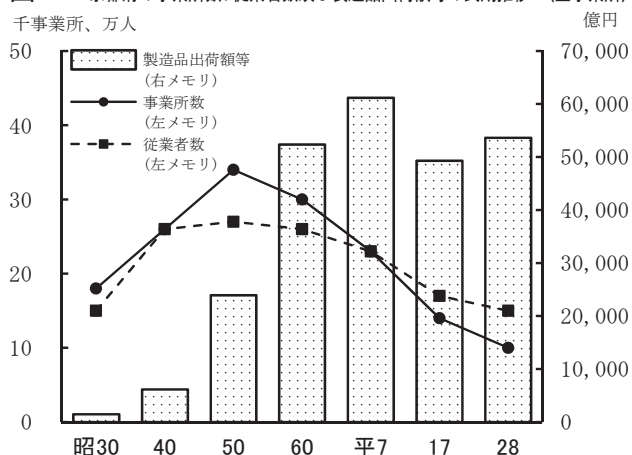


京都のものづくりの移り変わり

昭和30年から約10年ごとに京都府の製造業の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の移り変わりをみると、昭和50年の事業所数3万3623事業所、従業者数26万9829人をピークに、以降、減少が続き、平成28年は事業所数1万133事業所、従業者数14万8433人となりました。ピーク時の昭和50年と比べると、事業所数は69.9%の減少、従業者数は45.0%の減少となっています。一方、製造品出荷額等は増加傾向にあり、昭和50年の2兆3956億円が平成28年には5兆3624億円となっています。

(図1)

図1 京都府の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の長期推移 (全事業所)



出典：工業統計調査、経済センサス-活動調査（府企画統計課）

その移り変わりを産業別にみると、昭和30年から平成28年まで京都の伝統産業である西陣織や丹後ちりめんなどの繊維が事業所数1位でした。昭和50年では繊維が2万1287事業所で全体の63.3%、平成28年では繊維が3470事業所で同34.2%を占めていますが、ピーク時の昭和50年と比べると83.7%の減少となっています。

従業者数1位は、昭和30年から平成7年までは繊維、平成17年、平成28年は食料品となっています。昭和50年では繊維が9万4666人で全体の35.1%、平成28年では食料品が2万333人で全体の13.7%、繊維が1万4230人で同9.6%を占めていますが、昭

和50年と比べると繊維は85.0%の減少となっています。

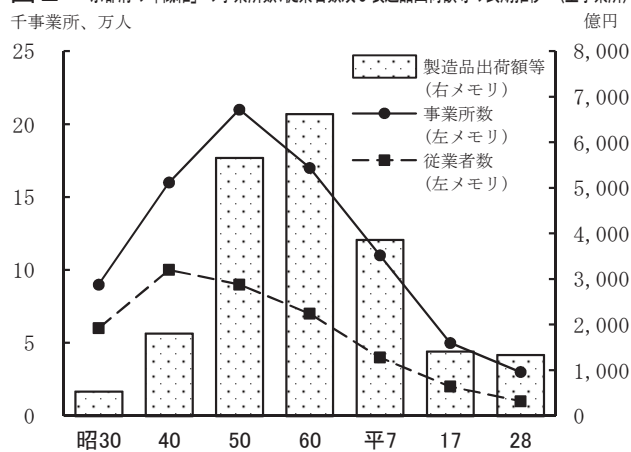
製造品出荷額等1位は、昭和30年から昭和50年までは繊維、昭和60年、平成7年は電気機械、平成17年、平成28年は飲料・たばこ・飼料となっています。昭和50年では繊維が5665億円で全体の23.6%、平成28年では飲料・たばこ・飼料が9397億円で全体の17.5%、繊維が1336億円で同2.5%を占めていますが、繊維は減少傾向となっています。

(図1、図2、表)

表 京都府の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等1位産業の長期推移 (全事業所)

	昭和30年 (1955)	40 (1965)	50 (1975)	60 (1985)	平成7年 (1995)	17 (2005)	28 (2016)
事業所数	繊維 9,386	繊維 16,088	繊維 21,287	繊維 17,104	繊維 11,211	繊維 5,426	繊維 3,470
従業者数 (人)	繊維 64,715	繊維 97,244	繊維 94,666	繊維 66,860	繊維 39,503	食料品 21,607	食料品 20,333
製造品出荷額等 (億円)	繊維 534	繊維 1,805	繊維 5,665	電気機械 9,593	電気機械 10,735	飲料・たばこ・飼料 6,422	飲料・たばこ・飼料 9,397

図2 京都府の「繊維」の事業所数、従業者数及び製造品出荷額等の長期推移 (全事業所)



出典：工業統計調査、経済センサス-活動調査（府企画統計課）

注：事業所数、従業者数について、平成28年は平成28年6月1日現在、その他の年は各年12月31日現在の数値。製造品出荷額等について、平成28年は平成27年1年間、その他の年は各年1年間の数値。